

町長の一言



地域イメージアップを

11月9日、第23回国民文化祭文芸祭「川柳」大会が開催され、会場となったコミュニティセンターには全国各地の川柳愛好家や地元の人たちが集まり、ホールが満席になるほどの盛況でした。

また、同じ日に常北保健福祉センターでは、第50回茨城県茶業振興共進会が行われました。奥久慈茶と猿

島茶に並んで古内茶も出展され、来場者の方々に古内茶の名を広く知っていただくことができました。

今回、国民文化祭に合わせ、町内各団体の協力により特産物の販売、食堂、お茶の一服処、菊花展等の催事が行われました。全国から来町された方々に城里町の良い印象を持ち帰っていただきたいという私たちの熱意が通じたのではないかなと思っています。お会いした遠方からのお客様からは、「暖かく歓迎してくれ

てありがとう。大会運営もスムーズにできてよかったですね」という言葉をかけられ、おもてなしがとて喜ばれたことを実感いたしました。周囲の方々の多くの協力があつてこの大会が成功したものと改めて感じ、大会運営に尽力された関係者の方々に深く感謝する次第です。

大会の後、川柳関係者のレセプションが水戸で行われ、その席上、「北海道や九州から来町されても城里町には特別これほという観光、名勝地はありませんが、晴天であれば、紅葉が始まった山々、鮭が遡上する那珂川等を含めて、すばらしい秋の景色を満喫いただけの」という話をしました。地域に有るものを見直し、地域から良い情報、明るい話題を発信していくことが、町のイメージアップにつながるものと思っております。

文芸しろさと

俳句



- 稲刈りて畦の直線現れし 飯田 勇一
- 烏瓜縦縞のまま日暮れけり 山崎 正行
- 秋時雨濡らしたくない金閣寺 森 静江
- 鎮魂碑東に秋の二重虹 今 瀬 多代美
- 餅二つあんたつぷりと昼膳 飯村 愛子
- 棕鳥の大将もあて飛び立てり いそべ きよ
- 灯台は風当る場所枯芒 高 橋 芦江
- 萩を買ふつもりコーヒー飲みあたり 竹 内 幸子
- よく揺れる枝より紅葉はじまれり 鯉 淵 寿美恵
- 玄閑の菊の大鉢香りけり 仲 田 まち玄
- 鮭大漁鱗かがやく地引き網 飯村 昭子
- 浜菊の蕊に五浦の波の音 田 所 厚子
- 弁当を水平に持つ子赤とんぼ 中 野 千賀子
- 残る虫雨あとの星降る如し 瀬 谷 博子
- 蔵の前新酒の香り足とどむ 岩 下 金司
- 水換えて研ぎ澄まされし鉈の刃 田 口 勝元
- 孫の顔思い浮かべて栗拾い 東 見 登美子

短歌



- 大空を飛行の一機が悠悠と下界は車の渋滞つづく 山 形 式 妙
- ジンジャーの花の清しき嫁ぐ娘が着ると白きドレス思ひぬ 渡 辺 千紗子
- ブームとて撫でつつ育らし娘らのペコちゃん人形は昭和の思ひ出 秋 山 愛子
- 異文化に触れし今宵の「公演会」その躍動美に惚ふひととき 大 森 久子
- 溪谷のこのせならざる水の音に心洗はれ暫し佇む(古峯が原にて) 佐 川 あや
- 実物の日露戦艦三笠丸古き造りの船内視察す 杉 山 みちこ
- 歳月を重ね来し身をまとめんか「嫁の座」王婦の座(今留守居の座) 宮 本 ふみ江
- 一杯のコップの冷水のどもとを過ぐる晩夏の日射しきびしも 所 美恵子
- 夏真昼木に鳴く蟬をジャンプして猫が捕らえぬ生くるは厳し 青 柳 京子
- ヒヨドリの梢に憩い楽しそう すきなく見張る西又東 阿良山 ウメノ
- 霜月と暦の上では記されども温暖化するか冷気感せず 仲 田 こう
- 大空にトンビ舞い飛ぶ雄大さ我を忘れてしばし眺めん 岩 下 美知野
- 紫の清かなる実の風にゆれムラサキシキブ裏山に映える 鶴 田 すが

秋来たる花のとりぐ美しく来る春忍ぶ姥櫻かな 市川 義子

母の指輪掌にまろばせば終の日にわが名よびにし声よみがえる 枝 不美

季すぎて啼く虫のあり違和感はあるど往にしを謳ふもよきか 片 見 和枝

いづべにか芒の穂わた飛びゆけり流離の果てを人は知らざり 川 上 千代子

若き日に読みにし「十三夜」なつかしく月影ふみつつ一葉をしのぶ 島 愛子

貨車一両置かれしみの無人駅が新装なりあて朱のまばゆかり(香取駅) 多 田 志保子

共にせし旅のなきまま夫逝けり独りテレビの旅に心遣る 坪 井 きよ子

運転のできぬ夫へ届きたる免許更新の通知見せがたし 萩 登喜子

岩走る水はすだれの如く広がり万緑の中四度の滝なす 富 田 佐智子

川柳



- 居酒屋の盛切、ばれ酒あのみさばあさんは白髪そめそめ紅をさす 青 木 新三郎
- 富田 欽子
- 公約は投票までの期限付き 富 田 多蔵
- 山の宿露天風呂にも秋が来る 永 井 英陽
- ほか弁にあった松茸小さい秋 中 島 芳春
- 木枯らしてなをくら景気身にしみる 山 本 隆 荘